

平成30年（2018年）4月17日

産学官連携で金山町を落花生の新産地へ ～新たな農業振興施策の構築と雇用創出による地域再生～

【本件のポイント】

- 行政の地域運営力・民間企業の社会貢献力・大学の地域志向力を結集し、新たな農業振興施策の構築と落花生新産地形成による雇用創出で地域再生を促進。
- 地域農業の振興を図るとともに、人口減少・少子高齢化に伴う地域課題を解決。
- 地域再生・地域活性化の新たな手法と具体的な取り組みにより、過疎・豪雪地帯の明るい未来を切り開く。



【概要】

人口減少・少子高齢化、国による生産調整の廃止など、地域農業は、自ら明確な目標を設定し、自ら取り組む推進力を有し、自らの創意工夫を凝らして持続可能な農業に取り組まなければならない時代に突入しつつある。このような状況の中、地域農業振興に向けて、**金山町・株式会社でん六・山形大学東北創生研究所が地域農業振興協定を締結**し、各機関の特性を活かした地域農業を展開し、地域活性化に取り組む。

【背景と経緯】

現在の農業を取り巻く環境は、人口減少・少子高齢化等の進展により益々厳しさを増し、平成30年度からは生産調整が廃止された。このような状況の中で、地域農業は大きな転換期を迎えている。この転換期は、もはや一市町村だけでは乗り切れる状況ではなくなってきた。今こそ、地域の産学官が連携しながら次世代の農業構築に取り組む必要があると、山形大学東北創生研究所では、産学官連携の農林水産業振興施策に取り組むモデルケースの構築を検討していたところ、金山町から協力の申し出があった。

連携を構築する民間企業としては、農林水産物を原材料として扱う、社会貢献に意欲のある県内優良企業を検討。菓子子の製造・販売を展開している国内有数の企業である株式会社でん六に協力を依頼し、このたびの協定締結に至った。現在、株式会社でん六で扱う主要原材料は、落花生である。今回の産学官による一連の試みは、新たに生産する県産落花生を使って新たな商品化に取り組んでもらい、新たな落花生産地の構築を目指すものである。

山形大学東北創生研究所では、既に、平成28年度及び29年度に、真室川町で落花生の栽培試験を行ってきた。その結果、豪雪地帯でも十分に栽培できることが分かっている。落花生は、あまり手間が掛からない省力作物であり、病害虫にも比較的強いことから、地域農業振興のための戦略作物として相応しいと考えられる。現在、豪雪地帯での落花生栽培技術は十分に確立されているとは言えないが、株式会社でん六の有する落花生栽培のノウハウの蓄積と当研究所の2年間にわたる試験栽培の結果から、今回のこの取り組みは十分に成果を挙げることができると確信している。

【取組の内容】

金山町・株式会社でん六・山形大学東北創生研究所は、産学官連携の地域農業振興協定締結により、1期3年間とし2期（平成30年度～35年度）にわたって、落花生の新産地形成を実現するための諸施策と研究を展開する。第1期・第2期の期間、各期間の取り組み目標、取り組み内容は次のとおりである。

第1期（平成30年度～32年度）：「過疎・豪雪地帯での落花生栽培技術の確立」

過疎・豪雪地帯での国産落花生の栽培試験・商品開発・試験販売・乾燥方法の研究、地元生産組織の結成及び生産活動の充実、関連機械の整備。

第2期（平成33年度～35年度）：「過疎・豪雪地帯での落花生増産・品質向上の実現」

過疎・豪雪地帯での国産落花生の増産方法の確立・品質向上方法の確立、増産方法及び品質向上方法の構築に関する研究、地元生産組織の生産活動の合理化、さらなる関連機械の整備。

お問い合わせ

学術研究院准教授（地域計画学）村松真／東北創生研究所内

TEL 023-695-6228 メール mm2009@human.kj.yamagata-u.ac.jp